

サイゴン稲門会



Saigon

会長メッセージ

日本が閉塞感に包まれているといわれているようですが、ここサイゴンはベトナム戦争の傷跡など、どこへ行ってしまったのかと思われるような活気に満ちた町になりました。既に有名なバイクの洪水は皆さんもご存じのことと思います。解放前の「小パリ」と呼ばれたサイゴン時代から見てきたサイゴンが再びインドシナを中心、ハブになろうとしているのを見てきた者には大変感慨深いものがあります。

最近「チャイナ+ワン」および「タイの洪水」の関係もあって日系企業の進出もさらに多く見られるようになってきました。今後もさらに会員が増えてくるものと思われませんが会員相互間の懇親、友好あるいは情報交換の場として本会をますます盛り上げていきたいと思っております。

皆さんも一度、サイゴンをお訪ねください。かつての日本の高度成長期のような「活気」に出会い、また、昔から親日家が多いベトナム人の笑顔に必ずや会うことができ、そこから多くの「やる気」をもち帰ることができると思います。 阿部俊行(1972年政経)

●2007年の春に初参加させていただきました。ベトナム人留学生です。当時は、山本幹事に初めてお会いし、メンバーリストには、60名以上いたと聞きましたが、ベトナム人は一人もいませんでした。早稲田大学に常に15名前後のベトナム人留学生がいるの



校旗はいつも後に立っています

に、ホーチミンに戻ってこないか、日本に永住する傾向が多いとわかりました。

参加当初は、ご年配ばかりで、飲み会では、常に、政治と仕事の話が中心でしたが、この2年、若いメンバーがどんどん入ってきて、いろいろな話題で盛り上がっています。ベトナム人留学生も2名に増えました。もっと、留学生を見つけて入会してもらい、サイゴンで交流を深めていきたいと思っております。今年も、ぜひ、早慶戦に勝つように目指せ! サイゴン稲門会。

DO SON BACH KHOA (1999年国際学)

サイゴン稲門会の人びと

People

会員からのメッセージ

●今年の6月でホーチミンに住んではや2年になります。バイクの喧騒と夜通し行われるお通夜のカラオケ大会を除けば、ここは本当に住みやすい場所で、街を歩けば、フレンチコロニアル様式の建物もたくさん残っており、いろんな発見があります。

稲門会の皆さんとのゴルフや飲み会は当地での楽しみの一つです。早稲田には夫婦で、私は高校、大学、大学院と13年(うち2年は留年)もお世話になりましたが、大学の絆というものを改めてこの地で実感しております。サイゴン稲門会の活動を盛り上げ、そろそろ後輩に面倒を見てもらう先輩からの脱却を図りたいと思っております。 朝賀 稔(1991年理工)

●4年前に日本輸出用の飼料生産会社の起ち上げで来越しました。メコンデルタの最深部でベトナム人と居住を共にしておりましたが、昨年よりサイゴンに住んでいます。文化や生活習慣の違いに圧倒されながらも、ベトナム人妻を娶り、現地人になりきったつもりでした。

されど、私などまだまだ駆け出し。サイゴン稲門会には、これぞ在住邦人といえる方々がいたのです。阿部会長は、ベトナム戦争当時から居住しているベトナムの生き字引。山本幹事長は、ベトナム歴十有余年の企業戦士。サイゴン稲門会で酌み交わす酒は、先輩後輩の垣根を越えた心温まるひと時です。

平野好文(1979年法学)

●早稲田を共通項に、業種や年代が違う人たちと、お酒を飲みながら冗談を言い合える。在越歴がまだ短い人、1990年代からベトナムにいる人、短いが完全に根差している人、そもそも国籍がベトナムの人など、いろいろ。そんな人びとと、初対面で、早稲田境界の内輪ネタやベトナムでの苦労話を楽しむ。冗談を言っているうちに、ベトナムや日本について語ってしまう。異国の地でそういう場を提供してくれるのが、私にとっての稲門会です。校歌をしっかり覚えてないのは反省です。 近江健司(1998年政経)

サイゴン稲門会について



稲門会ゴルフコンペ。三田会にはこれ以上負けれない

当 会が発足したのは第一次ベトナムブームがアジア通貨危機のあおりを受けて沈静化し始めた1998年12月のことです。当時に比べるとホーチミン市在住日本人の数は数倍に増えていますが、稲門会のほうは経済環境の浮き沈みとは無関係に現在35名前後の会員数で活動しています。

2か月に1度ほど、親睦会を開いており、年齢や職種を超えた貴重な集まりの場を会員の皆さんに提供しています。普段ではあまり繋がりのない人たちが集まって酒を酌み交わす酔狂です。

三田会とは、年に数回ゴルフでの早慶戦を



日越交流プロジェクト 現役学生との懇親会

行っています。以前はどのようなルール設定にしても稲門会が勝ってしまうので、結局じゃんけんで三田会に勝利の機会を与えるなどの便宜を図っていたのですが、最近4連敗し、稲門会での練習ラウンドも行っています。また、サイゴン稲門会主催で講演会を開催するなどの文化活動も行っています。

山本真史(1990年文学入学)

サイゴンの魅力

Charm

日本ではチャイナ+ワンなどと注目浴びているベトナム。そのなかでも、ホーチミン市(旧名サイゴン)はベトナム経済の中心です。

熱帯気候で、肥沃なメコンデルタに恵まれ、農水産物の輸出港として古くから栄えました。19世紀の仏領インドシナを中心都市で、当時の街並みが色濃く残ります。ベトナム戦争で米国側の拠点だったので、他の都市より市場経済の歴史が長いのも特色です。

戦争で離陸が遅れたため、今のベトナムは日本の1960~70年代といわれます。車は普及しておらず、街はバイクで溢れています。店は家



サイゴンの街角。バイクの洪水とこんがらがった電線がシンボルです

族経営の零細店だらけ。その一方で、スーパー、コンビニが増えてきて、庶民が携帯電話やスマートフォンまでもち、昔と現代が交錯しています。

ベトナムの売りは「人」でしょう。儒教文化のため、人が穏やかで、親を大事にします。親日的で、どこか日本人と似ています。治安もいい。



サイゴン・オペラハウス

人口約8700万、平均年齢は28.9歳くらいで、人が多くて若い。しかも、東南アジアでは珍しく、華僑に頼らない経済といわれています。

高インフレ、弱い裾野産業、進まないインフラ整備、高い不動産価格、役所の支配、不透明なやりとり…… 国が抱える問題は多いですが、それでも国を引っ張るのは、国民一人一人のエネルギーなかもしれません。それを牽引しているのが明るく大らかなサイゴン人です。心の広さ、国を引っ張るパワーという点では、早稲田人にも通じるものがあります。

近江健司(1998年政経)